

『伊豆×探究 ~美しさとSDGs おすんでつないで~』 活用の手引き

■コンセプト

この教材は、伊豆半島の様々な資源や取り組みを題材に、教室内の座学だけでは学びえない体験を探究的に見つめていくものです。諸感覚を動員して現場で“感じる”ことを通じて、生徒が憧れや違和感を自覚し、それを深めることで主体的に探究を推進していけるようになることを目指します。ユネスコの世界ジオパークに認定されている伊豆半島の「環境」「人」「営み」から伊豆らしさをすくいあげ(①)、それをSDGsの視点で見つめたうえで(②)、探究学習的手法で深めていきます(③)。伊豆で体感した学びを自地域へ持ち帰り、同様の視点で自地域の持続可能性に目を向ける「学びの水平展開」をしようというのが本書のゴールとなります。生徒の皆さんには旅行として楽しみながらも、自分たちの未来につながる学びを得てもらえれば幸いです。



授業案

探検準備(事前学習)

- [10分] P.2-3で本書で学ぶ伊豆半島とSDGsについて接続性を感じる
- [10分] P.4-5で伊豆半島の概要をつかむ
- [10分] P.6で伊豆半島の印象を書き出す
- [20分] P.7で訪れるエリアのことを調べる

探検(現地学習)

- [任意] P.8に現地で感じた「美しさ」をメモする
- [30分] P.9で「美しさ」について掘り下げてみる
※宿泊所での実施を想定しています。
 - └ (10分) 美しさを言語化してみる
 - └ (5分) 他人と比べてみる
 - └ (15分) 美しさを支える取り組みを要素分解する

自分事化(事後学習①)

- [10分] P.10でSDGsウェディングケーキモデルと伊豆半島の取り組みの関係について学ぶ
- [20分] P.11で現地で体感した美しさを支える取り組みについてSDGsにつながる視点で見つめてみる
- [20分] グループでP.11の内容を共有してディスカッションしてみる(※1)

自分事化(事後学習②)

- [10分] P.12で探究的な視点を類型化した「探究ものさし」の説明を読む
- [20分] P.13で取り組みを1つ挙げて「探究ものさし」で掘り下げてみる
- [20分] グループでP.13の内容を共有してディスカッションしてみる

自分事化(事後学習③)

- [15分] P.14で自分の地域について課題や取り組みを挙げる
- [15分] 挙げた課題から1つを取り上げ探究ものさしで掘り下げてみる
- [10分] P.14の内容を踏まえて解決に向けて考えたとき参考になりそうな伊豆半島の取り組みを挙げる
- [10分] 今回の伊豆訪問と事後学習を振り返り自分が変化したことを考えてみる。そしてそれと参考になる伊豆半島の取り組みと掛け合わせて、いま自分ができることを宣言してみる

自分事化ワークは3コマ分用意していますが、日程によっては現地の宿泊施設などで「自分事化(事後学習①)」を消化しても良いでしょう。その場合は※1を省略しても構いません。御校のご都合に合わせて実施してください。



学習目標

- ・訪れた先で感じた美しさを見つめる。
- ・美しいと感じた理由を言語化する。
- ・他人と共有し多様性を感じる。
- ・美しさを支える取り組みに目を向ける。

活動内容

- P.8に現地で感じた「美しさ」をメモする
- P.9で「美しさ」について掘り下げてみる
 - ↳ 美しさを言語化してみる
 - ↳ 他人と比べてみる
 - ↳ 美しさを支える取り組みを要素分解してみる

■現地で感じた美しさをメモする（P.8）

訪れた土地の景色や体験から、“美しい”と感じたものをたくさんメモさせます。写真やイラストでもいいですし、宿に帰ってからパンフレットの切り抜きを貼り付けてもいいでしょう。自分の感情が動いたことを大切に、それを自覚してもらうことが狙いです。

このときの「美しさ」は生徒それぞれで構いません。険しい山肌を見て美しいと感じる生徒もいれば、青く澄んだ海が美しいと感じる生徒、何も無い殺風景な中に静謐な美しさを見つける生徒もいるかもしれません。生徒が美しいと思ったものを大事にしてあげてください。

■美しさについて掘り下げてみる（P.9）

このパートは宿泊所などで行うことを想定しています。難しい場合は最初の「美しさの言語化」まで現地で行い、残りは学校に戻ってから最初の授業で扱ってください。

P.8で挙げたものの中から1つを取り上げ、「選んだもの」の[その内容]欄に記入します。そして、それに対して感じた“美しさ”を言語化してもらいます。先ほども触れたように、生徒によって様々な感じ方があるでしょう。それを言語化することで、自分の感じ方を自覚するようになります。

また、言語化した“美しさ”をグループや隣の人と共有し合います。人によって様々な感じ方の美しさがあることに触れて、SDGsでも大切な観点である多様性を感じてもらいます。他の人の意見は「他の人と意見交換したこと」欄にメモするようにするといいでしょう。

さらに、言語化した“美しさ”について、伊豆半島の「世界一美しい半島プロジェクト」を参考にしながら、美しさを支える取り組みについて意識を巡らせてみます。このとき人に情報を伝えやすくなるフレームワーク「5WIH」のうち、「Who：誰が」「What：何を」「How：どのように」を意識するように伝えてください。そうすることで、生徒自身も整理をしやすく、また先生が書かれた内容を捉えやすくなります。

5WIHのうち、残る「Where：どこで」「When：いつ」は、まさに今、訪れたエリアとなるので省いてもいいでしょう。「Why：なぜ」は現地の方にヒアリングしないとわからないかもしれないので、ここでは必須にしなくてもかまわないでしょう。

もし、次の日や学校に戻ってから電話やオンライン会議ツールなどでヒアリングする機会を設けられるようであれば、実施できるとより理解が深まるでしょう。



学習目標

- SDGsと伊豆半島の取り組みを接続する。
- 伊豆半島の取り組みをSDGsの観点で掘り下げてみる。

活動内容

- [10分] P.10でSDGsウェディングケーキモデルと伊豆半島の取り組みの関係について学ぶ
- [15分] P.11で現地で体感した美しさを支える取り組みについてSDGsにつながる視点で見つめてみる
- [25分] グループでP.11の内容を共有してディスカッションしてみる

■SDGsウェディングケーキモデルを通して伊豆半島の取り組みとSDGsの接続性を感じる（P.10）

伊豆半島が取り組む「世界一美しい半島プロジェクト」は、伊豆を持続可能で将来にわたって美しく発展させていこうとする取り組みで、各地で多方面において展開されています。それらの取り組みはSDGsウェディングケーキモデルであらわされるSDGsの理念に共通するものです。

ここでは、伊豆半島の具体的な取り組みを挙げながら、SDGsとの接続性を説明してください。

SDGsウェディングケーキモデルの「生物圏」は世界一美しい半島プロジェクトでは「環境」のカテゴリに共通し、原風景の保全や農林水産業の振興などが行なわれています。

同様に「社会圏」に対しては「人」のカテゴリで共通し、地域愛や伝統文化の継承、伊豆学などの取り組みがあります。

「経済圏」に対しては「営み」のカテゴリが共通し、ブランディングの推進や観光誘客などの取り組みがあります。

そして、「パートナーシップ」には「連携」を推進する様々な民間企業・自治体・学校学識経験者等で組織された美しい伊豆創造センター、伊豆半島ジオパークの存在があります。

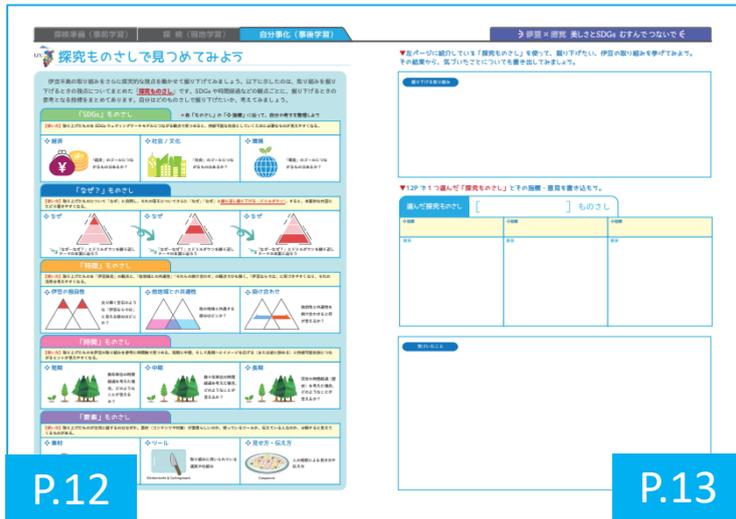
■美しさを支える取り組みをSDGsの観点で見つめてみる（P.11）

P.10で見たように、伊豆半島の取り組みはSDGsにつながってゆきます。そうしたことを踏まえて、現地で体感した美しさをSDGsにつながる観点で見つめてみます。

P.9で書き出した美しさを支える取り組みについて、「自然とのかかわり方（環境）」「誰が、誰の（社会／文化）」「何をしている（経済）」「他の人とどのように行なっているか（連携）」の観点で分解してみます。

これによって、着目した取り組みがどのように各領域とつながっているかが見えやすくなります。

分解ができれば、グループや周囲の人とディスカッションさせてみましょう。記入した人が気づいていない部分があれば、積極的に教えてあげるように伝えてください。



学習目標

- 取り組みを探究的な視点で掘り下げる。
- 掘り下げるときの視点のバリエーションに触れる。
- 様々な見方があることに気づく。

活動内容

- [10分] P.12で探究的な視点を類型化した「探究ものさし」の説明を読む
- [20分] P.13で取り組みを1つ挙げて「探究ものさし」で掘り下げてみる
- [20分] グループでP.13の内容を共有してディスカッションしてみる

■探究的に掘り下げる視点を学ぶ（P.12）

伊豆半島の取り組みを、さらに探究的な視点で掘り下げていきます。このとき、何も無いと掘り下げにくいと思うので、学習者が視点を簡単に選べる“いくつかの指標のセット”として、「探究ものさし」を開発しました。ここでは、それぞれの「探究ものさし」の説明を読んで、各視点について理解を深めます。なお、用意した「探究ものさし」は、伊豆の地域特性・取り組みに合った内容を選択しておりますが、使いたいものが無い場合はオリジナルの探究ものさしを作成するのもよいでしょう。

- 「なぜ」ものさし：「なぜ、〇〇なのか？」という質問を繰り返すことで、より本質的な問いを生みやすくなります。
- 「特徴」ものさし：“伊豆ならではの”のものを見つけ出すために、「独自性」「共通性」「掛け合わせ」という視点で掘り下げてみます。見つかった“伊豆ならではの”は、自分の地域に応用する際の参考になります。
- 「時間」ものさし：時間軸でとらえたときに言えることが無いかを考えます。近未来から少し遠い未来へフォアキャストしたり、逆に到達したい未来からバックキャストして近未来に取り組むべきものが見えたりします。
- 「要素」ものさし：着目した取り組みの美しさは、どのような要素で構成されているかを見つめます。扱っている「素材」はどうか、それをアレンジする「ツール」はどうか、人の目に触れさせる「見せ方・伝え方」はどうか。このように分解することで、応用をしやすくなります。

例) 「時間」ものさしで「大室山の山焼き」を見つめる
 短期：今、目の前で山を焼いている姿が見ている人に感動を与える
 中期：ツアーなどを通じて多くの人の認知を獲得していく
 長期：里山の環境保全につながる

取り上げる取り組みはP.11で取り上げたものでも、新たに気になったものでも構いません。P.11で取り上げた取り組みの場合は、「SDGsものさし」以外を使うと良いでしょう（すでにP.11でSDGs的な観点で見つめているため）。

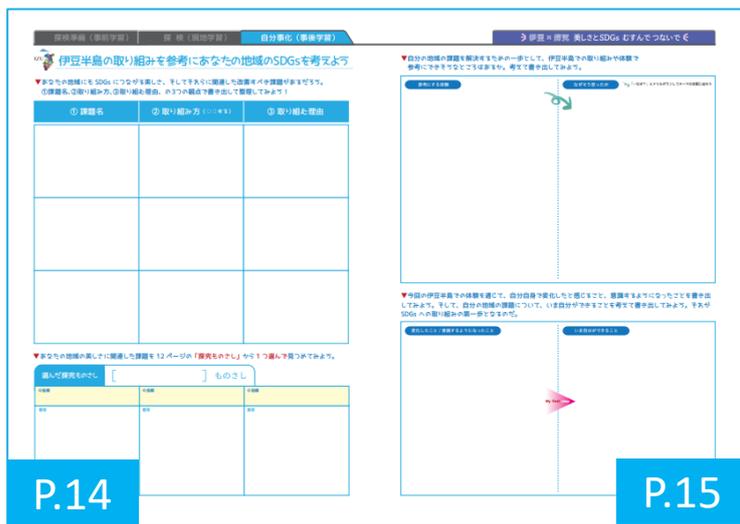
■取り上げた取り組みを「探究ものさし」で掘り下げる（P.13）

「探究ものさし」で伊豆半島の取り組みを掘り下げていきます。11ページで取り上げたものでも、新たに気になったものでも構いません。

掘り下げたい取り組みを挙げ、12ページで紹介した「探究ものさし」から1つ選んでその名前を記入します。そして、挙げた取り組みを、探究ものさしの指標に沿って掘り下げてみましょう。

また、掘り下げた結果を見て、気づいたことを記入欄に書き込みます。

一通り書いたら、グループや周囲の人とディスカッションさせてみましょう。ここでも、記入した人が気づいていない部分があれば、積極的に教えてあげるように伝えてください



学習目標

- 自地域の課題を見つめる。
- 自地域の課題を「探究ものさし」で掘り下げる。
- 参考になる伊豆半島の取り組みを考える。
- 自分の変化を振り返り、そのうえで今からできることを考えてみる。

活動内容

- [15分] P.14で自分の地域について課題や取り組みを挙げる
- [15分] 挙げた課題から1つを取り上げ探究ものさしで掘り下げてみる
- [10分] P.14の内容を踏まえて解決に向けて考えたとき参考になりそうな伊豆半島の取り組みを挙げる
- [10分] 今回の伊豆訪問と事後学習を振り返り自分が変化したことを考えてみる。そしてそれと参考になる伊豆半島の取り組みと掛け合わせて、いま自分ができていることを宣言してみる

■自分の地域の課題を挙げる（P.14）

“美しさ”をテーマに、自分の地域の課題を考えてみます。伊豆半島で感じたような美しさが自分の地域にはないか、その美しさに関連する課題がないか考えさせましょう。そして見つけた課題について、それを改善していくための「取り組み方」「取り組む理由」について書き出させます。伊豆半島での体験を思い返しながらかえると、考えやすいでしょ。

■課題を「探究ものさし」で掘り下げる（P.14）

挙げた課題の中から1つを選び、P.12で紹介している「探究ものさし」で掘り下げます。選んだものさしの名前を記入し、各指標に沿って考えてみます。使いたいものが無い場合は、オリジナルの探究ものさしを作成するのもよいでしょう。

■解決に向けて参考になりそうな伊豆半島の取り組みを挙げる（P.15）

掘り下げた自分の地域の課題に対して、解決に向けて参考になりそうな伊豆半島の取り組みがないか、考えて書き出させましょう。自分が触れた取り組みでも、グループディスカッションで出てきた取り組みでも構いません。

そして、書き出した取り組みがなぜ参考になると思ったか、理由も書き出させます。理由まで掘り下げることで、自分の地域の課題解決に応用しやすい要素が見つかりやすくなります。

■自分の変化を振り返り、今から自分ができていることを考える（P.15）

最後に、今回の体験を通じて自分自身で感じている変化、意識するようになったことなどを言語化させます。そして、そこに参考になる伊豆半島の取り組みも掛け合わせて、今自分に何ができているかを考えて宣言してもらいましょう。

自分の変化と伊豆半島の取り組みを掛け合わせることで、伊豆での体験が自分事化され、活用しやすくなります。

もし、時間に余裕があれば、宣言内容をグループ内やクラス内で共有してもいいでしょう。